

学校生活に慣れ、いきいきと生活できる子をめざして

山下 美樹

はじめに

入学式の日、大好きな両親や伯母につれられ、うれしそうな表情であったY子。早速教室にあるおもちゃのレジスターでお買い物ごっこを始め、記念写真でもそれをなかなか離せなかった。

Y子は一人遊びができ楽しむ力も十分持っている児童である。しかし、本年度入学で見通しがいいこともあり、学校生活に慣れるまで一つ一つの活動に移るたびに拒否反応を示していた。たとえば、合同の生活単元学習や合同音楽がプレイルームである場合、プレイルームに行くのを拒み、一緒に活動が楽しめない状態であった。しかし、学校生活に慣れ、どんな活動かがわかってくると移動もスムーズになり、自分が楽しめそうな活動の際には、進んで活動できるようになってきている。活動内容がわかってくると、「これをして次はこれをして、次はなんだっけ」などという言葉も出てくるようになり、学校生活について見通しがかなり立ってきている。そんなY子が、学校生活に慣れ親しみながら見通しを持って心から楽しむことのできる活動をもっと増やしたいと願って実践を続けているところである。

1 プロフィール

(1) 生育歴

- ・平成2年1月9日生 小学部1年 女子 てんかん
- ・生後4か月目でひきつけをおこし、7か月目で重積状態で入院、9か月目に再入院
2歳のときにてんかん性脳症と診断される。2歳3か月までは発作が頻発していた。
(9か月の頃より抗てんかん剤を朝夕服用)
- ・心身障害児通園施設 W学園通園(平成4年4月～平成5年3月、平成6年4月～平成8年3月)
6歳3か月本校入学
- ・両親、妹(4歳、2歳)の5人家族

(2) 諸検査等による実態

遠城寺式乳幼児発達検査(H8.5月実施)

移動運動	手の運動	基本的習慣	対人関係	発 語	言語理解
2 : 6	3 : 4	3 : 8	3 : 4	3 : 0	2 : 3

新版K式発達検査(H8.11月実施)

姿勢・運動	認知・適応	言語・社会	全 領 域
2 : 4	2 : 3	2 : 7	2 : 5

- ・遠城寺式乳幼児発達検査では、言語理解が低く、新版K式発達検査では、認知・適応が低い。聞いた言葉をすぐに覚え使うなど発語は多いので言語理解も高いように思いがちだが、認知的なことが低く、それに基づく言語理解も低いと思われる。また、生活経験

に基づく力（ボタンをはめる・顔を一人で洗うなど）は家庭・園での継続的な指導により高くなっていると思われる。

- ・自分づくりの段階は、自我の拡大を終え、自我の充実期にさしかかっていると思われるが、認知的な面が低いので、自分の好きな物ほしい物を強く要求する気持ちも強い。

(3) 楽しむ姿について

- ・粘土遊び、砂遊び、水遊び、ままごと、キーボード遊びなど楽しめる遊びをたくさん持っている。
- ・一度遊びを始めると集中して取り組む。納得するまで遊んでいない時に次の活動に誘うと「いや」と言って泣き出す（「もっと！もっと！」の心）。
- ・好きな活動をするのがわかると楽しみに待ち、その前にしなければならないことも進んでしようとする。
- ・楽しい活動をしている時、うれしそうな表情をし、さかんに話しかける。
- ・見通しが立たない活動であったり、長時間拘束される活動や身体を動かす活動では途中で「眠たい」「おなかがすいた」などと言い不機嫌になる（自己中心性、待てない）。
- ・ひとつの活動が楽しめた場合、同じような他の活動をさせようとしても、抵抗を持つ（同一の遊びばかり没頭し、発展性がない）。

2 取り組みの方針

(1) めざしたい姿

- ・学校生活に慣れ、少しは進んで活動する。
- ・楽しめる活動を増やす。
- ・いきいきと活動する。

(2) 指導の方針

- ・本児が意欲をもって取り組める教材や環境を設定する。
- ・見通しの立てられる言葉かけや支援を工夫する。
- ・教師もともに活動し、共感したりほめたりする。
- ・活動を事前に家庭へも連絡し、本児が期待感をもって登校できるようにしたり、活動の様子を家庭に知らせたりし、本児の満足感を高める。

3 指導の実際

(1) 1学期の実践から

1学期は学校に慣れるということを大きな目標にして取り組んだ。

月	主な単元と活動	支 援	児 童 の 様 子
4	「みんななかよし」 ・先生や友だちと一緒に遊ぶ。 ・クラス学習や合同学習に参加する。	・自由遊びをたっぷりさせる。 ・子どもに寄り添う。 ・無理強いさせない。	・ままごと遊び、シャボン玉、紙切り、のりはり、粘土遊びなど好きな遊びには集中して取り組む。 ・「朝の会」の時にすわるということがなかなかできない。

			<ul style="list-style-type: none"> ・合同学習「ともだちをむかえるかい」の練習や合同音楽のあるプレイルームに入るのを嫌がる。
5	<p>「おかあさん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おかあさんのまねをして調理遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな活動を選びたっぶりさせる。 ・同じ活動を繰り返し、見通しを立てやすくする。 ・家からエプロンや材料を持ってくることにより、見通しを立てやすくさせ、期待感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理遊びは好きなので、集中して行う。 ・調理や製作活動など同じ活動を繰り返したので、見通しが立ち、活動がスムーズになってきた。
6	<p>「なかよししゅくはく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊の紙芝居を見る。 ・お風呂ごっこをする。 ・布団を敷く。 ・先生や友だちと一緒に学校に泊まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見る・聞くの活動を通して見通しを立てやすくする。 ・「学校に泊まる」ということは本児にはとてもうれしいことなので、それを認め気持ちを高める。 ・同じ活動を繰り返しできたことをほめ、自信をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・紙芝居で学校に泊まることを知らせると喜ぶ。 ・お風呂ごっこを楽しむ。 ・クラスのみんなどお風呂に入ることも楽しむ。 ・2年生の布団敷きをよく見て、自分で布団を敷こうとする。 ・初めて家族と離れて泊まった。 ・どの活動も嫌がらずにでき、自信につながった。

6月頃より少しずつ次への生活の見通しが立ち先の楽しみに向かえるようになってきた。さらに、宿泊学習を終えクラスの友だちとの関わりも持て始めたところで、「たなばた発表会」の単元に入った。

(2) たなばた発表会の実践

(たなばた発表会の学習の流れ)

- ① 「3びきのこぶた」のペープサート劇を見る。
- ② ペープサート劇を見た後、劇にすることを決め、自分のなりたい役を決める。
- ③ 担任とともに劇遊びをする中で自分の台詞を覚える。(家からは台詞や効果音が入ったテープを聞く。)
- ④ 劇に使う小道具をつくる。
- ⑤ 「たなばた発表会」に参加する。
- ⑥ 劇の絵をかいたり、登場人物の張り子をつくったりする。

(支援とその成果) (ーは支援を示す。)

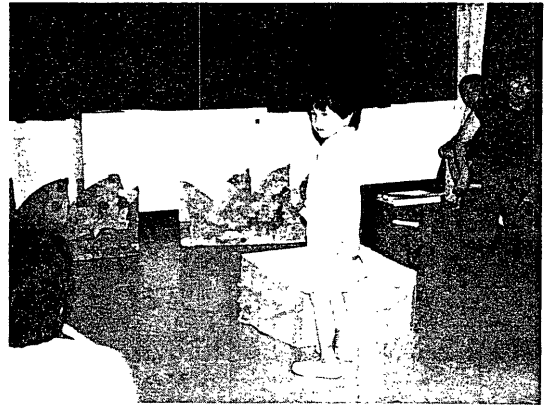
- ・ 本児の好きなキャラクターや活動を取り入れたため、劇にははすぐに興味をもつことが

できた。また、「Y子ちゃんは、子豚。」というように役も自分で選ぶことができた。

・ 本児が興味をもって見たり聞いたりすると思われる台本や、効果音の入ったテープを家庭に持ち帰らせた。そのため、物語への見通しができ、練習も楽しみながらすることができた。

・ 場の移動を無くし、単純な場の設定をしたり、繰り返しを取り入れたりして、見通しを立てやすくした。初めの劇遊びから台詞もところどころ言え、スムーズに劇にはいることができた。

・ 遊び感覚で本児の様子を見ながら、無理なく劇練習を繰り返した。本児はしだいに友だちに台詞を教えたり、励ましたりすることもできるようになった。



楽しんで子ぶたちんを演じるY子

(3) 家庭との連携を通して

家庭とは、主に生活ノートを通じ連携している。その日の出来事や様子を担任が書き、保護者は家庭での様子を書くというノートであるが、児童の興味や関心を知らせてもらうよいヒントももらうことがある。「たなばた発表会」の「さんびきのこぶた」の題材もそのノートのやり取りの中で生まれたものである。さらに、①調理遊びで作ったものや芋掘りで掘った芋などをお土産に家庭に持ち帰る。②そのことを家庭での話題にしてもらい、ノートに書いてもらう。③次の日学校で、またその活動についての会話が広がるというように、一つの楽しい活動がさらに深まることにつながっている。

—— 生活ノートより ——

6月10日(月) 家庭より

今日は、お父さんが夕方休んで大喜び。私の仕事の間、お話のビデオをいっぱい見せてもらって楽しかったようです。Y子はやっぱり三匹の子豚がすきです。

6月11日(火) 学校より

なるほど！プーリンのしっぽをつけたら「おしりぷりぷり～」と自分で踊ってくれるわけです・・



「おかあちゃん、どうぞ。」と招待状を渡すY子

4 考察と今後の課題

- ・ 1学期当初に比べ学校の生活についての見通しが立つようになり、次の活動へ拒否反応をおこすことは少なくなっている。しかし、一つの活動を楽しめても同じような活動に一般化できないという弱さがある。教師は本児が見通しをもてるような支援をさらに考えていかなければならない。(カード、声の掛け方等)
- ・ 楽しい活動の中にも認知的能力を向上させていく教材や題材をさらに開発していく必要がある。